

平成31年度(2019年度) 県立水戸第一高等学校自己評価表

<p>目指す学校像</p>	<p>○授業を中心とした、意欲的で活気ある学習活動を展開する学校</p> <p>○生徒が、特別活動(学校行事、ホームルーム、生徒会活動)、部活動など多様な活動機会の中で切磋琢磨し、能動的な経験を蓄積しながらたくましく成長できる学校</p> <p>○生徒一人ひとりの進路希望実現に貢献できる学校</p>		
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>重点項目</p>	<p>重点目標</p>	<p>達成状況</p>
<p>平成30年度の重点項目に関する10の重点目標の達成状況は、Aが6、Bが4であり、総括的には目標をほぼ達成できたといえる。</p> <p>進学状況については、国公立大学の現役合格者数が6年連続で120名を超えた。過年度を加えた国公立大学合格者総数は、30年度186名と5年ぶりに200名を割り込んだが、31年度は202名と回復した。難関大学(旧帝国大学、東工大、一橋大)についても、30年度は57名のところ、72名合格と、70台を回復した。東京大学は現役3名、既卒5名で計8名にとどまった。また、国公立大学・準大学の医学部医学科合格者は、全国的に厳しい入試が続く中、現役5名、既卒4名の計9名で、昨年より3名の減となった。</p> <p>特別活動については、部・同好会活動の加入率が90%を超え、7つの部が全国大会に出場している。さらにホームルーム活動、生徒会活動も活発に行われている。クラスマッチ・学苑祭・歩く会をはじめとした学校行事は、生徒主体の実行委員会によって自主的に運営され、充実した内容となっている。</p> <p>平成31年度から医学コースの設置、令和3年度の中高一貫教育校の開設を控え、新規事業の組織作りと、そのための情報収集及び情報の発信等広報活動に努めるとともに、生徒の心に火をつける教育を進めていきたい。</p>	<p>教育課程の工夫改善と学習指導の充実</p>	<p>①新学習指導要領の告示を踏まえ、単位制を活用した新しい教育課程の編成に向けて検討を進める。</p> <p>②電子黒板を活用するなどして、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。</p> <p>③拡充した夏季課外を円滑に実施し、生徒の進路希望実現に資する学力の向上を図る。</p> <p>④60分授業の効果を高めるために、さらなる授業の質の向上を目指して、授業に係る研修機会の確保・充実に努める。</p>	<p>B</p> <p>C</p> <p>B</p> <p>B</p>
	<p>進路意識の高揚と確かな学力の養成による進路希望の実現</p>	<p>⑤難関大学(旧7帝大+東工大+一橋大)や国公立大医学部医学科等への進路希望実現を支援し、現役進学率の向上及び既卒生を含めた国公立大学合格者数の増加に努める。</p> <p>⑥卒業生の協力を得るとともに、大学や病院と連携して高い志を持って医学部に進学し、将来医師として社会に貢献できる人材の育成に取り組む。</p>	<p>C</p> <p>C</p>
	<p>健康安全指導の充実</p>	<p>⑦健康安全に留意し、心身ともに健康で、生き生きとした学校生活を送れるよう指導する。</p>	<p>B</p>
	<p>特別活動等の充実</p>	<p>⑧特別活動(学校行事、ホームルーム、生徒会活動)、部活動等の充実をはかり、創造性を養い、自主自立の精神の確立に努める。</p> <p>⑨学校行事を適切に配置することにより、各行事の円滑な実施と充実に努め、新たな伝統の創造を目指す。</p>	<p>B</p> <p>B</p>
	<p>将来を見据えた教育活動の充実、特に医学コースの設置や中高一貫教育校に向けての準備</p>	<p>⑩社会の変化に対応し、本校から世界に羽ばたく人財、グローバルな視野を持って地域社会の発展に貢献する人財の育成のため、中高一貫教育や医学コースの情報の収集と発信を行いながら組織作りに努める。</p>	<p>B</p>

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
国語	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	A 大学入学共通テストの運用上の変更にとまない若干の修正を迫られたものの、継続して記述強化の授業を展開することができた。次年度以降も教科全体で情報を共有しつつ進路意識を高める指導を継続していきたい。
		○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。	A	
		○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	B	
	国語の学習に対する意欲・関心を高める。	○授業方法を工夫改善し、教員相互に授業を公開するなど、随時教科内における研修等を行い、指導方法に対する研究を深めていく。 ○指導内容・方法・進度について、各学年の担当者間での打合せを綿密に行う。	B	日常の授業について各学年の担当者間において綿密かつ頻繁に打合せを行うことができた。次年度以降、担当者相互の授業公開や教科全体での研修機会を増やしていきたい。
	基礎学力の定着を図り、段階的に難関大学入学試験に対応できる学力の養成を図る。	○小テスト等によって基礎学力の定着を図る。 ○適宜添削指導を実施し、難関大学入試に対応可能な文章読解力と表現力の養成を図る。 ○副教材等を利用し、学習内容の活用を図る。 ○定期考査について基本から発展までの設問構成を工夫し、平均点50～60点台の問題を	A	小テストの実施による基礎学力の充実、添削指導の実施、副教材の有効な活用、定期考査における設問構成の工夫等について、各担当者とも積極的な意識のもとに取り組むことができた。次年度以降も継続し、効果的な指導に繋げたい。
	自立的な学習を促し、豊かな言語能力を持った生徒を育成する。	○課題等を生徒の実態に即して適宜与え、生徒が自主的に学ぶ姿勢を育み、段階的に自立的学習に移行できるよう促す。 ○読書意欲を喚起し、読書感想文コンクールへの取り組みを奨励する。	A	課題については各学年担当者間の慎重な打合せのもと、段階的に能動的な学習活動へと移行できるよう実施することができた。生徒の実態に即して時期やタイミングおよび習熟度をよく考慮しながら課すことができた。次年度以降も継続していきたい。
地歴公民	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	A 大学の学問内容との関連を意識した授業を基本としながら、思考力、判断力、表現力などの生徒の能力を伸長する方法について研究を進めたい。 本質的なことをわかりやすくを目標に、各科目において授業内容の充実に努めた。記述や議論など生徒の主体的な活動をとり入れていきたい。 新課程を意識し、授業内容・教材・授業方法などの検討に着手した。課題意識の共有や新たな情報の確保につとめ、さらなる指導法の向上に努めたい。
		○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。	A	
		○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	B	
	綿密な教材研究や授業改善を進めることで、進路実現のために必要な確かな学力を養成する。	○専門性に裏打ちされた授業を展開し、生徒の知的好奇心を喚起させる。 ○基礎・基本を徹底させるとともに、その知識を生かして自ら思考し、課題に取り組んでいく姿勢を身につけさせる。 ○国公立大個別試験、難関私立大学試験、センター試験の分析を綿密に行い、授業や考査において、それを反映させることにより学力を向上させる。	A	1年次での「税の作文」・新聞を利用した課題学習や、2・3年次各科目での科目特有な見方・考え方を養う授業を引き続き継続する。こうして喚起された興味・関心をもとに、生徒自らが課題を設定し、探究活動が行えるよう支援していきたい。また、大学入学共通テスト実施や教育課程の変更に向けて、科内での研究・検討をすすめる、指導を充実させていきたい。
	教科研修を充実させることで、教員の授業力の向上つなげ、教育改革や中高一貫教育への対応を図る。	○指導力の涵養を視野に入れ、高い見識の修得を目指した教科研修を積極的に実施する。受験指導では個別の入試に的確に対応できる体制の構築を図る。 ○科目担当者間での授業の進度、指導方法など綿密な打合せを行い、課題意識を共有し、指導を充実させる。 ○電子黒板などICT機器の活用をすすめて実践事例を蓄積し、ノウハウの共有化を図る。 ○新課程・中高一貫教育に対応するための内容精選や指導計画の見直しなど、地歴公民科の将来像についての話し合いを継続する。	A	A 学力の3要素を踏まえ、主体的な学びを意識した授業改善や考査問題の質的向上を継続した。電子黒板については、各授業担当者が積極的に活用した、授業見学や意見交換などを通してノウハウの共有化が進んだ。本校以外への研修会の参加を積極的に行い、さらに利用方法を深めていきたい。また従来から続けてきた入試問題の研究だけでなく、新テスト・新学習指導要領など教育改革への対応についても、本格化させ、現在からできる授業改善のありかたを探っていきたい。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
各 科 共 通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	授業や課題で扱う内容に発展的な問題を取り入れ、生徒が興味・関心をもって主体的に取り組めるよう工夫した。継続して指導方法の研究に努める。 生徒の実態把握に努めながら、授業の進度や指導内容を検討した。次年度も検討を重ね、よりよいものを構築していく。 予備校主催の研修会への参加や教科内での授業参観を積極的に実施し、指導方法の研究に努めた。さらに教科内で情報を共有し、継続して研究をしていく。
	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。	B	
		○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	A	
	数学	授業に積極的に取り組ませるとともに、自主的に数学に取り組む態度を育成する。	○予習・復習を励行させるとともに、課題等の提出を習慣づける。 ○学年担当者間の連絡を密にし、教材の精選と授業内容の充実を図るとともに、様々な解法を例示するなどして、生徒の興味・関心を高める。 ○電子黒板などICT機器の実践事例やノウハウを蓄積し、職員間で共有し実践することで生徒の授業理解の深化を図る。	
進路実現のための学力向上を図る。		○考査・試験の問題は精選・検討を重ねるとともに、結果についても分析を行い、継続的な指導に活かす。 ○入試問題等を日頃から研究し、積極的に授業に取り入れ、入試および新テストに対応できる力をつけさせる。 ○入試問題分析会(東京大・京大・東北大)を実施し、入試問題研究や教材研究により教員のレベルアップを図る。	A	
各 科 共 通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	生徒の主体的な取り組みを高めるような指導法・教材・教具を工夫し、授業の中での活動を重視してきた。来年度も、さらなる工夫を進めていきたい。 生徒の授業に対する定着度を注意深く観察しながら、各科目において授業内容の充実に努めた。記述や議論など生徒の主体的な活動にも取り組んだ。 校内・校外の各種研修会に積極的に参加し、指導技術の向上に努めた。来年度も研修を継続していきたい。
	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。	A	
		○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	B	
理 科	知的好奇心を育て、科学的な思考が身につくよう、教員の授業力の向上を図り、授業展開を工夫する。	○自然科学の様々な事象現象を、生徒が実際に実物を見て、触れて、それらについて考察し、科学的な思考を深められるように、演示・生徒実験を多く取り入れる。 ○科学的な思考を身に付けられるように、過程が確認できる形式のレポートの作成を指導する。 ○先端の科学技術について、授業内で適宜話題に出し触れていく。	A	各学年とも多くの観察・演示・生徒実験を取り入れた授業を行い、レポート提出などを通じ、生徒が主体的に理解する姿勢の育てる指導を行った。来年度については、観察・実験においても、一層主体的・対話的な学びの場を工夫して実施し、生徒の理科的思考や態度を身に付けさせたい。
	確かな学力の定着を図ると共に、生徒それぞれの進路希望に応じた学力試験に対応できる学力の養成を図る。	○基本的な原理・法則の理解を深め、さらに問題演習を盛り込み、演習量を確保する。 ○国公立大個別試験、難関私立大学試験、センター試験の分析を密に行い、授業や考査において、それを反映させることにより学力を向上させる。 ○校内試験毎にテストの見直しをさせ、基礎学力の定着を図る。	A	
	新学習指導要領や新テストに向け、研修の確保・充実を図り、教員の授業力向上・これからの時代に求められる教育のよりよい在り方に対する意識の向上を図る。	○新学習指導要領・新テストに対応するための学習指導の在り方や校内模試の在り方など、これから本校の理科教育の在り方についての話し合いを進めていく。 ○主体的な学びや対話的な学びの過程で、ICTを効果的に活用する。 ○ICTの活用などに際しては、教員間でのノウハウの共有化を図るなど研修の機会を設け、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。	B	
各 科 共 通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	生徒の主体的で深い学びにつなげるために各授業を通じて、生徒が教え合うこと学び合うことを促進したい。進路実現に向けて体力面からもアプローチしたい。 指導内容を段階的、系統的に体系化を図り、生徒の伸長に寄与したい。 研修会への参加や教科会を通じて授業方法の改善を図り、生徒の主体的活動の契機としたい。
	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。	A	
		○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	A	
	保 健 体 育	歩く会の高い完歩率を維持させる。	○集団行動における規律と態度を学ばせ、有意義な集団生活を送らせる。 ○体力向上のために、計画的な授業計画を立て、意欲的な楽しい展開とする。	
体力テストの底上げを図る。		○長距離走への積極的な取り組みにより、体力向上を図る。 ○本校生の弱い部分の強化を図る内容を工夫する。 ○特別活動の体育分野における積極的活動を推進する。 ○本校生徒は筋力に関する種目が弱いので、毎時補強運動を実践する。	B	
				伝統行事の「歩く会」の意義を理解させるとともに、健康面への配慮を念頭におきながらも体力の向上を図っていきたい。 基礎体力の養成から体力の向上に繋がり、ひいては生涯にわたって健康生活や豊かなスポーツライフを送ることができる点を理解させ、粘り強く生徒の指導にあたっていきたい。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
保健体育	授業時のケガの防止に努める。	○正しい動きを身につけることがケガの予防につながるため、細かく基本的な動きを指導するとともに、用器具の使用についても安全第一を心がけ指導する。 ○授業に臨むにあたり、健康観察や熱中症対策に努める。 ○校外を走ることが多いので、交通安全に注意して身を守ることと、周囲に迷惑を与えない行動が取れるよう促す。	B	A 基本的なスキルの獲得と安全面への配慮を念頭に授業に取り組むようにする。基本的なスキルは競技性を高めるだけでなくケガの防止にもつながり、安全面の配慮は事故の防止につながる点を踏まえながら指導に努めたい。	
	「保健」をとおして心身の健康の保持増進を図る。	○「保健」をとおし、思春期における生徒の健全な成長を促し、地球環境における自らの役割を理解させる。 ○「保健」の授業をとおし、思春期における自身の健康課題を理解するとともに、社会的な課題における自身の役割を理解する。	A		「保健」の授業では、各自の健康課題を理解させ、生活実践に活かす指導を行いたい。そのためには、グローバルな視座にも立ちながら健康課題をとらえる指導に取り組んでいきたい。
芸術	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	A 基礎的な内容を重視しながらさらに芸術の本質を幅広く深く理解追求する姿勢を意識させ、進路意識もより高まるよう指導を進めた。次年度も継続して行いたい。 各単元ごとの目標を明確にし計画的に展開すること、かつ、その目標設定を生徒の意欲がより上がるラインに細やかに設定することで、生徒の主体的な取り組みが活発になった。個別の指導も丁寧に行うことができた。 校外での各種研究会などに参加し、効率のよい実技・実習のあり方を探れた。音美書ともさらに研修・研究を重ね、充実した授業をめざす。	
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。		A B
		鑑賞の機会を確保するよう努める。感性を高め、人生を豊かにするという意識・態度を育てる。	○校外学習等の鑑賞会を実施して、より多くの作品に接する機会を増やし、本物だけが持つ魅力を体感させ、豊かな感受性と人間性を身につけさせる。 ○授業で数多くの作品を取り上げ、鑑賞させる事により、芸術に対する視野を広めさせるとともに、ものを見つめる目を養い、そこから真実を発見しようとする態度を身につけさせる。		A
	自発的に、課題に取り組む姿勢を持たせる。	○実技・実習の時間を確保するとともに、その内容を精選し、工夫して実践できるようにする。基礎から応用までバランスの取れた授業内容を目指す。 ○アクティブ・ラーニングを意識した、能動的な学習を取り入れ、より活性化した授業展開を目指す。 ○自分の表現を発表する機会を増やし、その表現を生徒同士で共有し理解し合う場面を多く設ける。	B		B 積極的に実技・実習に取り組み、内容の充実した作品・演奏を完成させようという姿勢が身に付いた。授業時間ばかりでなく、朝、昼休み、放課後等に自主的に取り組む生徒もいるなど、高い意識で主体的に取り組む姿勢が見られた。作品をつくりあげる過程での意見交換の場面も効果的に取り入れられた。次年度も、本校生に適する基礎から応用までバランスの取れた授業内容を目指したい。
	新たな教材研究に努める。	○新しい展開を生むための教材研究に努めるとともに、教師自身が技術向上の研鑽を積み、高いレベルでの指導ができるよう努める。	B		幅広い作品についての指導をするため、専門分野や芸術全体に対する視野を広める活動をこころがけた。芸術に関してさらに研鑽を積み、生涯にわたり芸術を愛好する人間の模範を生徒に示したい。
	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。		A
充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。		○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	B A		
1年英語を読み、書き、聞き、話す活動とその適切な評価を通して、実践的コミュニケーション能力の基礎となる4技能の基本運用力を育成する。		○コミュニケーション英語Ⅰでは、理解と表現のバランスのとれた指導を行い、英文を正しく理解し、より実践的なコミュニケーションを図るための基本知識と技能を養成する。 ○英語表現Ⅰでは、技能統合型の言語活動を取り入れ、英語で適切に自己表現するための基本知識と技能を養成する。 ○授業での指導内容と関連させながら、サイドリーダーなどの課題学習を効果的に活用し、自ら英語を学ぶ力を涵養し、より正確な英文理解力および表現力を養成する。 ○テスト問題の改良や適切なパフォーマンス評価を実施して生徒の英語力を正確に測るとともに、更なる学習の動機付けに資するような評価の在り方を考える。 ○グループワークやペアワークを多く取り入れ、英語による発信力を強化する。	A	高1生が入学時より履くことなく英語学習に取り組めること、「英語が好き」「授業が好き」「難しいけど楽しい」といった思いを育てること、を念頭に授業内容や授業進度を設計した。 コミュニケーション英語Ⅰでは、教科書本文の内容理解に加え、レッスンの内容に即してティームティーチングを実施することにより、学習内容の実践的発展的学びを達成した。また、教科書外の教材(スピーチ・映画の台詞等)を用いて、生徒が暗唱する機会を設ける等、英語学習への動機付けを多方面から図った。さらに、難関大学の2次試験を意識した教材(抽象的観念的な題材)を複数回用い、1年後2年後を見据えた発展的学習を実施した。 英語表現Ⅰでは、体系的かつ明示的に文法項目を学習するとともに、課毎にエッセイライティングの時間を確保し、英作文に対する耐性を高めることができた。同時に、映画の台詞を暗唱題材に用い、生徒の英語表現力を高める活動を多角的に行った。 その他、単語テスト、サイドリーダーによる多読を実施した。 次年度は、今年度に習得した語彙力と文法力を足掛かりに、英語に関する知識や技能をさらに深め、「自立した学習者」が育つことを最終目標としたい。	
外国語					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
外国語	2年 英語4技能を使った活動を効果的に行い、正確な英文理解力と表現力を中心に、実践的な英語コミュニケーション力の基礎を養成する。	○コミュニケーション英語Ⅱでは、様々な活動を通して英文の理解を深め、読解力を高める。また、実践的コミュニケーションの基礎となる知識と技能を養成する。 ○英語表現Ⅱでは、文法事項や段落構成を意識した英作文の指導を行い、より正確で論理的な表現力を養成する。 ○サイドリーダーなどの課題学習を効果的に活用し、自ら英語を学ぶ力の涵養と正確な英文理解力・表現力を養成する。 ○調査問題の工夫や適切なパフォーマンス評価(話す・書く)を実施し、生徒の英語力を正確に測るとともに学習の動機付けに資するような評価の在り方を工夫する。 ○活動やパフォーマンステストを通じて4技能の運用力、英語で考える力を伸ばす。	B	A コミュニケーション英語Ⅱでは、Q&Aやパラフレーズ、リテリングといった運用力だけでなく、文法参考書を併用したより正確な構造的把握力の強化を目指した。参考書の多用により、より体系的な文法力と、それに付随する読解力が徐々に身につけてきた。英語表現Ⅱでは、昨年同様、教科書の基本例文に焦点を当て、受験時にも活用できるような型作りを試み、生徒は小テストや定期考査にもよく取り組んできた。サイドリーダーや総合問題集等の自学教材については、継続的な指導を実施してきたが、結果的に取り組みには個人差が見受けられた。また、学年内において、授業展開や作問など、適宜会議を設け、より一貫した方向性で指導ができるよう話し合いを進めることができた。次年度は、この2年間に培った生徒の基礎力と、教員間の団結力を融合し、大学受験にも対応可能な総合的な英語力の育成に尽力したい。
	3年 英語4技能の習熟に努めながら、より発展的な理解力および表現力を育成する。	○英語表現Ⅱでは、英語で効果的に自己表現するための知識と技能を養成する。基本的な表現はもとより、読んだり聞いたりした事柄について、その内容の要約や、その内容に対する自分の意見を書くなど、まとまった英文を書く力を養う。 ○リーディング演習では、表現活動を取り入れながら、情報を検索する、正確に読む、など、その目的に合わせた多様な読解力を養う。 ○音声や映像を活用し、読解力と並行して聴解力の向上を図る。 ○授業中だけでなく、自習課題も活用し、大意を把握する力と必要に応じて細部を正確に読み取る力をさらに向上させ、大学入試に対応できる力を養成する。 ○エッセイを作成させ、授業中および定期考査や校内模試等で評価する。	A	英語表現Ⅱでは、基本表現の定着を中心に入試問題の和文英訳、自由英作文、要約、リスニングも発展演習や模試に用いて実践的な表現力を高めた。リーディング演習では、前期は電子黒板を活かして音声や映像も利用し、特に聴解力・速読力などセンター試験に対応できる力を多くの生徒が高めた。後期は入試問題の演習・精読・解釈を中心に実施し、大学個別試験に対応できる力をつけた生徒が増加した。1年より継続してきた週末の課題学習と週明けに同範囲での小テストを行う流れを前期まで実施し個々の力を伸ばした。後期は希望者対象の英作文個別添削を行い難関大学入試に備えている。その他、大学のリスニング問題に挑戦するランチリスニングやセンター過去問演習にも多くの生徒が参加した。志望大学別課外の充実・問題の分析など、個の進路に応じた力を高めている。
家庭	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	B	将来自立した生活が送れるように基礎、基本的な知識や技術を確実に習得させたい。そのために生徒の実態を把握し、生徒の実態を考慮した実習や実験を多く設定していきたい。 教員間で教材や指導方法の話し合いを十分に行い、連携をして授業を展開していきたい。次年度は実習・実験の時期を見直していきたい。 生徒の実態に合わせた「主体的・対話的で深い学び」を育成するために60分授業を上手く利用した授業展開を計画していきたい。
	各科共通	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	A	
		○60分授業の定着を図り、指導方法等の研究を進めるため授業に係る研修を実施する。	B	
	基礎・基本の内容を体験を通して理解させ、問題を見つけ、よりよい生活に変えていくこととする態度と生きる力を育てる。	○実験・実習内容の工夫と精選をし、知識と体験の定着を図る。 ○自ら学び自ら考える力を育て、身近な生活と自分の人生に反映していこうとする態度が身につく授業の展開と充実を図る。	A	
各分野の関連性・重要性を見だし、日常生活と比較させることで、主体的・総合的に生きようとする意識・態度を育てる。	○夏休みの宿題になるホームプロジェクトに関しては、4月からの授業の中で全員が計画的に進めていけるように支援し、日常生活の中の問題点・改善点を認識させ、生活の質の向上に結びつくように工夫する。	B		
情報	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	特に「統計学」の分野において、可能な限り生徒の進路に結びつくテーマを選んで授業をおこなうことができた。 指導要領の改訂を見据え、プログラミング教育の充実等、内容を再構成し授業の充実を図っていきたい。 引き続き、高教研情報部の研修や外部のICT研究大会への参加等を通して、最新の情報を得ることに努める。 情報モラルに関して、生徒の中には問題意識が希薄な者が若干見受けられる。SNSの正しい使い方等、着実な定着を図っていきたい。 プレゼンテーションについて、昨年度より時間をかけて指導することができた。各自がテーマを設定し課題に取り組むことができた。2年時に全員がおこなう「課題研究」では内容のより一層の充実が期待される。
	各科共通	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	A	
		○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	B	
	学習活動を通じて、情報モラルに対する知識・理解を深め、適切に行動できるようにする。	○授業において、情報機器の活用や言語活動を通して、個人情報取り扱いやネットなど情報モラルに対する知識・理解を深め、生徒がそれを適切に実践できるようにする。	B	
各種ソフトウェアを活用してプレゼンテーション等における表現能力の向上を図る。	○ワード、エクセル、パワーポイント等のソフトウェアを活用し、プレゼンテーション等において効果的な表現をするために必要な「調べる」「まとめる」「分かりやすく発表する」「相互に議論する」能力を高める。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	授業時間を確保する。	○自習をできるだけ避けるため、早めに出張・年休を把握し、可能な限り授業交換をする。その際、交換による授業のアンバランスにも配慮する。さらに、授業の曜日変更により、定期審査間の授業時数を均一化をはかる。また、昨年度より拡充した夏季課外を円滑に実施する。	B	A 曜日変更により定期審査間の授業時数はほぼ均等にすることができ、また出張・年休による授業もほぼ完全に振り替えることができた。また、55分4時間限に拡充した夏季課外も円滑に実施することができた。次年度は単位数の少ない科目の変更の在り方を検討したい。 研究構想部との連携のもと、電子黒板の活用も定着し、教員相互による授業研究などを通してさらに質の高い授業を展開することができた。次年度は、WIFI導入に向けて、利用方の研修と研鑽を進め、授業の質のさらなる向上に向けた取り組みを進めたい。 新学習指導要領の告示や大学入試制度の変更を見据え、本校に適した教育課程についての検討を進めることができた。また、新教育課程については、まもなく編成案を作成を終了する予定である。 各説明会や学校公開を予定どおり実施するとともにポスターを各中学校に配付し、広報活動に努めることができた。次年度は併設型中学校の開設に伴い、小学生対象の説明会の内容について、改めて企画し直した上で実施したい。 支援システムの更新は担当者の尽力により順調に運用され、先生方の負担軽減につながっている。次年度は、システムが県の統合システムに年度途中で切り替わるので、円滑に移行できるようにしたい。
	授業内容のさらなる充実を図る。	○60分6時間授業をより充実したものとするため、研究構想部と協力して、教員相互による授業研究などを実施する。また、昨年導入された電子黒板の活用を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実を努める。	A	
	令和2年度以降の教育課程の検討をする。	○新学習指導要領の告示を踏まえ、単位制を活用した、より教育効果の高いカリキュラムの構築を目指すとともに、大学入試制度の変更を見据えた検討を進める。また医学コースの設置や中高一貫教育校に向けて各教科・分掌と連絡を取りながら教育課程を検討する。	B	
	教育活動を公表する。	○学校説明会委員会や研究構想部と連携して、中学生対象の水戸一高説明会、小学生対象説明会、学習塾対象説明会の実施により学校を公開する。また、同時に地域住民等に広く水戸一高の教育理念を周知する。	A	
	単位制支援システムの運用を図る。	○支援システムの円滑な運用を進めるために、管理体制を見直すとともに、使用法の徹底や活用法の研究をする。システムの効率的運用で教員の授業研究時間の増加を見込む。	A	
特別活動	学校行事を通じて、本校生としての一体感と誇りを持たせ、学校生活を充実させる。	○各委員会生徒と密接な連携を図り、明確な活動計画の基で各行事の運営を行う。 ○生徒の自主・自立の精神を尊重しながら、適切な指導を行うことで、質の向上を追求する。 ○積極的な生徒会活動への参加を充実させる。 ○学習活動や他の諸活動とのバランスをとり、学校生活を充実させる。	A	B 生徒会および各委員会生徒と密接な連携により、計画的な行事の運営がおこなえた。また天候等による突発的に臨機な対応を求められるなかでも、日頃の生徒との信頼関係の構築から、より適切な対応ができた。そこには自主・自立を尊重しながらも、適切な距離感で指導することで、生徒の成長を窺うことができた。 さらに積極的かつ主体的な生徒会、委員会活動になるための効果的な指導法、また生徒の創造性を高める指導法を継続的に検討していきたい。 部活動の加入率は高く、向上心をもった積極的な活動が、各種大会、コンクール等、校外活動の結果からも窺えた。学業との両立の観点も踏まえ、各部とも休養日等、適切な配慮のもと活動をおこなっていた。設備や道具の管理にまだまだ課題があるので、各部単位ではなく全体として考えていく必要がある。 部活動の広報においては、的確に実施できなかった。迅速かつ効果的な広報を実施するための体制や方法を継続して検討していきたい。部活動の活動計画、実施報告も年間通じて確立していきたい。
	部活動を通じて、豊かな感性と健全な心身を育む。	○率先して何事にも積極的に行動するリーダーシップを持った生徒を増やす。 ○各部活動で活動の充実・成績の向上を目指しながら、設備や道具の管理を徹底させる。 ○休養日等を適切に配置して健康の維持をはかるとともに、学習活動との両立を目指す。	B	
	各種資料の整理を図るとともに広報を充実させる。	○校内において、部活動の活動状況を的確に整理する。 ○校外への広報活動では、HPの内容の充実と迅速な更新を行う。	B	
進路指導	生徒一人ひとりに高い進路目標を設定させ、一人でも多くの生徒がその進路希望を実現できるよう支援し、同年度の卒業生に関して、現役時と卒業後の合格者合計で、難関大学(旧7帝大+東工大+一橋大):80名、医学部医学科:25名、国公立大:220名を目指す。	○1・2学年と連携し、生徒の進路意識の高揚を図るとともに、授業を中心とした主体的かつ計画的な学習を促進させる。 ○生徒が大学のオープンキャンパスに明確な目的意識のもとで積極的に参加し、得たい情報を自らすすんで獲得しその活用がはかれるよう、学年との連携のもとで事前・事後の指導を強化するなど、その指導の在り方の工夫に努める。 ○進路室の環境を向上させ、進路相談のさらなる充実を図る。 ○東大を含めた難関大および医学科の研究を通じて、「難関大研究会」の機能をさらに強化し、進路希望の実現に結びつける。 ○新テストに向けて、1・2学年や教科と連携し、定期考査等での出題の工夫や、新テスト型の模擬試験の受験をはじめ、新傾向の問題への生徒の対応状況を確認しつつ十全な対応を図っていく。	A	B ○進路意識の高揚については、1・2学年団による積極的な生徒への働きかけが年間を通じて計画的に実施され、十分にその目標を達成できた。また、オープンキャンパスについても、1・2学年を中心に丁寧な事前指導により、生徒のより明確な目的意識のもとでの参加がなされた。事後指導も丁寧に行われ、学習へのモチベーションを効果的に高めることができた。かなりの労力を必要とするところだが、今後もしっかり継続していく必要がある。 ○難関大研究会についても、東大研究会を中心に、学年との連携のもとで学年個々の問題意識を反映した新たな取り組みを効果的に行うことができた。また、医学コースの事業が始まり、医学部医学科志望者への指導もこれまで以上に充実して行うことができた。今後の継続に当たっては、惰性に陥らないよう十分な注意が必要である。 ○新テストについては、英語の外部試験と数学と国語の記述式の問題は無くなったが、他の部分については教科において対応が進んでおり、また、2学年において共通テスト型の模擬試験を実施した。今後もしっかり対応していく。 ○数値目標の達成度については、3月の結果を待つ。
	学年との連携を図り、生徒や保護者に、機を捉えて適切な進路情報を提供する。	○学年と連携し、進路講演会やガイダンスを通して、情報提供と生徒の啓発に努める。保護者に対しては、保護者対象の進路講演会等も実施し進路情報の共有に努める。 ○「進路通信」を発行し、生徒に情報提供するとともに、進路意識の高揚を図る。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	生徒のデータを、3年間通して見渡せるような進路情報システムを確立し、それらの情報・データを職員間で共有できる環境を整備し、さらに、指導技術の向上に努め、一層の進路指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3年間の成績と最終的な大学の合否がリンクした形でデータベースを完成させるとともに、職員間で利用しやすい形での加工モデルを作成する。</li> <li>○外部の研究会に積極的に参加し、その情報を教員間で共有し、生徒へ還元する。</li> <li>○校内模擬試験の位置付けを確実なものとし、その分析結果を本校独自の進学指導資料として活用する。</li> <li>○現役生はもちろん浪人した生徒も含めて、進路確定まで継続的な指導を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第3回校内模試や7月進研模試の成績と、現役時及び浪人時の大学の合否が、大学、学部、学科別等で検索できるシステムを完成することができた。今後もデータを追加・更新することで、利用しやすさと信頼度を高めていきたい。</li> <li>○また、有効な利用に向けて、活用時のポイント等についても、職員にアナウンスしていきたい。</li> <li>○旧3学年による浪人生への激励会が年2回実施され、また、個別の相談にもしっかり対応することはできた。</li> </ul>
研究構想	一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「心に火をつけるフォーラム」「社会人インタビュー」「校風の理解(講演会)」「大学模擬講義(5教科主催)」を通して、自分の在り方・生き方や進路について考えさせる。</li> <li>○課題研究や「知道プロジェクト発表会」を通して、自ら課題を発見し多様な視点から論理的に考察する力や自己を表現し他者に伝える力を培う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校では「心に火をつける教育」推進事業と銘打ち、「総合的な探究の時間」を活用してひとりひとりが輝く学校づくりの各種事業を実施した。生徒の学ぶ意欲を喚起し、高い視点と広い視野を醸成し、将来の在り方・生き方について考えさせることができた。</li> <li>○2学年全生徒が課題研究に取り組み、クラス発表会を経て、代表による「知道プロジェクト発表会」を実施することでコミュニケーション能力も涵養するなど充実した活動ができた。次年度も継続して取り組みたい。</li> </ul>
	教員の授業力向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新入生授業見学会・校内授業公開による実践研修、筑波大学附属高校等の教育研究大会・駿台教育研究所の教育研究セミナー等による指導法研修を行い、質の高い授業を研究する。</li> <li>○校内教員研修会・県外進学校視察等を行い、難関大学進学指導やHR経営等の知識やノウハウを蓄積・継承する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内授業公開を年2回実施し、全教職員による相互授業参観に取り組み、授業力向上を図ることができた。筑波大学附属高校等の教育研究大会へ3名、駿台教育研究所の教育研究セミナー等へ10名と派遣人数を倍増し、多くの先生方に活発に授業研究を行っていただき、指導技術を各教科内外へと共有できたことで、生徒への還元が円滑に進んだ。</li> <li>○校内教員研修会を実施し、本校のベテラン教員による講話からその動的情報を共有し、経験値を継承することができた。また県外進学校視察により、難関大学進学指導等の情報を得ることができた。変化の激しい時代の進展に応じ、多様な新しい指導を可能とするオンライン型教員研修を開始し、研修の更なる充実を図った。次年度も継続して取り組みたい。</li> </ul>
	開かれた学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中高連携や、高高・高大連携を推進し、相互に連携・交流を深める。</li> <li>○学校公開や「道徳」公開授業を行い、本校の教育活動や取り組みを広く周知する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中高連携に関して茨城大学附属中への出前授業を行い、グローバルな視点を共有する双方向的な時間を持った。その過程で海外研修での学びを構内のみならず地域の学校へと伝えたことで学ぶ意欲の喚起を互いにもてた。</li> <li>○学校公開は、「道徳」や「道徳プラス」の授業を含めて、午後の3時限を公開授業とした。来校者は194名にのぼり、学習活動での高い評価を得ることができた。高大連携に関しては3名の生徒が筑波大学等で学び単位を認定された。次年度も継続して実施する。</li> </ul>
	充実した教育活動により、未来を担う人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「総合的な探究の時間」を通して、進路意識と探究心を刺激し自らの将来像を考えさせ、「道徳」「道徳プラス」を通して、道徳的判断力や道徳的实践意欲・態度を育成する。</li> <li>○学習のしおり(シラバス)、課題研究優秀論文集、海外派遣プログラム報告書、紀要、本校独自の道徳ノートを作成し、3年間を見通した学習の計画や1年間の教育活動の振り返りに資する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「道徳」や「道徳プラス」の授業を、「道徳ノート」を利用して効果的に実施できた。シラバスの充実により、講座選択や3年間を見通した学習が円滑に進められた。</li> <li>○「課題研究優秀論文集」「海外派遣プログラム報告書」「紀要」により、1年間の教育活動の振り返りができた。次年度もグローバル社会でリーダーとして活躍できる人材の育成を目指し、「心に火をつける教育」推進事業、授業研究等による指導力向上対策、開かれた学校づくり等、充実した教育活動の研究に継続して取り組みたい。</li> </ul>

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
生徒指導	基本的な生活習慣の確立を図る。	○挨拶の励行。特に来校者に対しては、積極的に挨拶をするよう指導する。 ○校外・地域等に進んで貢献・奉仕しようとする意識を持たせる。 ○規範意識を高め、水戸一高生として誇りの持てる行動をするよう指導する。	B	学校公開時のアンケートにも挨拶がよくできているという感想があったが、全体的に挨拶をする生徒は多いと思われる。今後もコミュニケーションの第一歩ということで指導していきたい。
	学校生活の安全を図る。	○思いやりのある豊かな人間性を養い、人間関係を円滑にし、水戸一高生として自覚ある行動をとるよう指導する。 ○各学年、保健厚生部、養護教諭、スクールカウンセラーとの連携を密にして、生徒の心身の健全な育成を目指す。 ○インターネット依存症防止のために、スマートフォン等の適切な使用法を指導する。 ○インターネット上で個人やグループに対する誹謗中傷や、SNSでの仲間はずれ、個人攻撃などをしないよう指導する。	B	全体として多くの生徒が落ち着いた学校生活を送ることができた。今後も、各学年、保健厚生部、スクールカウンセラー等との連携を密にし、生徒支援の体制をさらに強化していきたい。保護者との連携を図り、保護者の理解と協力で生徒指導にあたり、生徒の学校生活の充実を図りたい。また、スマートフォンの使い方について講師を招いて講習を行ったが、引き続き講習会を行い指導していきたい。 また、生徒の学校生活の安全のためにも、貴重品の管理及び施錠等を徹底するよう継続して指導していきたい。
	交通安全の意識を向上させる。	○自転車は車道の左側通行など、交通法規の遵守を徹底させる。 ○自転車による交通事故ゼロを目指し、スマートフォンやイヤホンを使用しながら運転をしないなど、安全な自転車の乗り方を指導する。	B	12月末時点で、自転車の事故は5件発生。昨年と比べて4件増。(登校時4件、下校時1件。)すべてが自動車との接触事故。幸い軽傷であったが、救急車で病院に搬送が3件、今後も交通ルールの遵守とマナーアップを呼びかけていきたい。
	いじめ問題に適切に対応する。	○いじめの未然防止に努め、いじめのない学校を目指す。 ○いじめを早期発見するために、各部署との連携を図り、職員全体で情報を共有する。 ○教職員対象の研修を実施し、いじめに対する意識を高める。	B	7月に鉄道研究会内でいじめを認知。当該学年及び生徒指導部で指導、県へ報告した。関係部署と協力していじめの再発防止に努めた。以降はいじめはなくなり、新たないじめもおきていないが、各部署との連携を図り、早めの初期対応とともに職員全体で情報を共有していきたい。
渉外	学校行事を各分掌、該当学年と連携して円滑に実施する。	○入学式・卒業式を、関係する学年や各分掌と連携、協力して円滑に実施していく。	A	入学式・卒業式とも保護者の出席率が高く、本校に対する保護者の期待に反することのない儀礼の実施が求められている。次年度も適切に対応していきたい。
	奨学会関係の事業を、各分掌、各学年と連携して円滑に進める。また、同窓会との関係を深め、諸事業に協力する。	○奨学会総会並びに奨学会役員会の企画・運営を、各分掌、各学年と協力して円滑に進めていく。 ○保護者や学年への連絡・報告を適切に行い、様々な学校行事が円滑に進められるように内容を工夫改善していく。 ○70%におよぶ奨学会総会の出席率を維持していく。 ○同窓会との連携・連絡を適切に行い、諸事業に協力していく。 ○高等学校PTA連合会関連行事を用いて、本校教育活動の発信に努めていく。	B	A 本年度も奨学会役員会および奨学会総会で、生徒の活動を支援する予算項目の増額継続が承認された。次年度以降も継続していきたい。奨学会総会の出席率70.4%と高い出席率を維持することができ、特別教室に関する空調費の予算措置も承認された。また、11月1日「茨城教育の日」をはじめ、高等学校PTA連合会関連行事に多く参加し、次年度の高P連水戸地区発表のための準備ができた。次年度以降も継続していきたい。
	奨学金関係事務を適正に実施する。	○奨学金関係の事務および奨学生の選考に関する事項等を、遅滞なく適切に行っていく。	A	奨学金については、生徒の希望に添った奨学金制度を紹介し遺漏なく手続きをすることができた。一方で卒業生との連絡作業量が増加し、連絡方法の改善が必要である。次年度も奨学金制度の普及と、奨学生の選考を適切に行っていく。
情報	PCや情報機器の整備・管理・運用を適切に行う。	○校内のPCの保守・管理を的確に行う。 ○職員用PCの配備を年次進行で実施する。 ○電子黒板・付属機器等の管理を行う。 ○電子黒板を効果的に利用するための教室環境について検討を行う。	B	担任の先生方へのPC配付については、時間がかかったが終えることができた。副担任・部長等の先生方への配付は、徐々に進めていきたい。次年度からはPCを使用する際の会議等への対応も検討していく。電子黒板については、機器の不具合やペンの消耗等が予想以上に発生した。迅速な対応を心がけたい。
	HPの充実を図る。	○早い頻度でHPの更新を行う。 ○懸案である英語のページの充実を図る。	B	B 年度はじめはHPの更新が遅れていたが、後半にはかなり更新がスムーズに進んだ。次年度はできるだけ速やかな更新を進めると共に、さらに見やすいHPの構築を検討する必要がある。英語のHPは生徒の報告等の掲載を検討していく。
	情報の処理等についての支援活動を行う。	○個人情報の管理、ウィルス対策等の注意喚起・情報提供を随時行う。 ○アンケート処理等の的確な方法を検討し、支援を行う。	B	各部への支援が不十分であった。他の分掌への支援は、分掌間で十分に連携を取り、役に立つ支援策を検討しなければならない。スムーズで正確な処理を提案できるように、今後も検討していきたい。
	学校評価アンケートを適切に実施する。	○質問項目について、昨年度までとの継続性を考慮しながら検討を行う。 ○正確な処理を行う。	A	質問項目を検討し、正確な処理を行うことができた。次年度においても正確な処理を実施する。



評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
図書	主体的に深く学ぶ生徒を支援する図書館として一層の充実を目指す。	○図書管理・検索システムの不断のメンテナンスにより、安定的運用を図る。 ○教科からの授業内容に関連する推薦図書情報を得て、レファレンス・展示等を、貸出し利用に繋げる。 ○多様な興味関心をもつ生徒に沿った選書を行う。	B	○図書管理・検索システムの最新OS(Windows10)への対応状況や修正プログラム配付についての情報入手に留意しバージョンアップが必要なときは検討する。 ○教科担当者からの推薦図書の書棚コーナーを更に充実させる。 ○併設中学校が必要とする書籍について情報収集に努め選書にも反映させたい。
	読書体験の啓発・推進を図る。	○授業の中で図書館の積極的な利用を進める。 ○図書館の利用者数、貸出し数増加を図るため分かりやすいPOP展示、新収蔵図書の紹介を行う。 ○読書会等を実施し読書体験の共有・啓発運動を行う。	A	○第1,2年次の総合的な探求の時間(課題学習)での学年・学級の一斉利用を契機として、生徒個人の日常学習においても一層の図書利用が進むよう、館内展示・図書紹介を進める。 ○読書会、ビブリオバトル等のイベントを年に複数回実施して読書体験の共有や促進を進める。 ○読書感想文コンクールに引き続き出品できるよう教科と連携し指導を行う。令和元年度は全国高校生読書体験記コンクール文部科学大臣賞を受賞することができた。
	生徒委員会活動のさらなる自発的運営、活発化を目指す。	○学級選出委員と希望委員が意欲的に活動できるよう、毎日のカウンター当番を基盤としながら委員会のリーダー育成について配慮する。	A	○校外生徒委員会研修会(全県、水戸地区)や学苑祭への文化団体参加、定期刊行物(冊子、新聞)の編集作業などを生徒が主体となって活動できるよう引き続きサポート、配慮する。
	機関誌を確実に発行し、本校の歩みを正しく記録する。	○年報の発行に向けて、編集方針検討や資料収集作業を着実に進行。 ○図書館報2誌の制作を計画的に行い発刊する。	B	○年報21号の発刊について、情報収集を継続し着実に編集作業を行い制作する。 ○図書館報、2誌の制作を計画的に行い発行する。
保健厚生	学習環境の整備に努める。	○校舎内外の美化活動の取り組みを推進する。また、ゴミの分別を行うよう指導する。 ○教室内・各教科準備室等の空気・照度検査、飲料水の水質検査を実施する。 ○モップや教室のカーテンのメンテナンスを行う。	A	今年度初めて、知道会館と江山閣のダニの検査を行ったが、来年度は音楽室やパソコン室のカーペットに対しても実施したい。また、中高一貫に伴い、洋式トイレの増設や、カウンセリング室をどうするか、検討する必要がある。
	心身ともに健康的な生活習慣の確立に努める。	○健康診断や保健室利用時などの機会をとらえて、保健指導を行う。 ○日常生活の中で、事故・怪我等がないように身の回りの注意を払うよう指導する。 ○スクールカウンセラーを有効に活用し、心身の健全な育成を目指す。 ○新興感染症に関する情報と予防法の周知と実践を指導する。 ○健康情報提供のための「保健だより」を、毎月1回発行する。 ○防災に対する意識を高め、校内の状況と避難経路の確認するよう指導する。また、校外においても緊急事態に対応できるよう意識づける。	B	地震や火災対応の避難訓練は毎年行っているが、原子力災害対応の訓練を検討する必要がある。また、避難訓練の際、消防署員よりアドバイスを受けた内容(初期消火訓練)を実施したいと思う。
1学年	基本的生活習慣の養成を図る。	○挨拶を中心とした、誠実な態度を身に付ける。 ○時間厳守 ○規範意識の醸成	A	基本的生活習慣についてはある程度のレベルまでは達成できた。しかし、相手の状況を考慮して反応することなどは未だ行えない生徒多く、更なる働きかけが必要を考える。
	自ら課題を見つける学習習慣の養成を図る。	○知的興味関心の喚起 ○主体的学習への移行支援 ○家庭学習時間の確保 ○読書習慣の確立	B	各種進路行事や講演会などにより、特定の学習内容への興味関心は高まったが、それが学習活動に結びついていない生徒が見られる。また、指示待ちに代表される受け身の行動が見られ、主体性の面でもまだ成長の余地があると考える。
	特別活動への積極的参加のなかで変革の意識を持たせる。	○学校行事、部活動、委員会活動への積極的参加。 ○各種大会へ積極的参加およびその成果の学年全体へのフィードバック。	B	委員会活動や部活動には積極的に参加しており、すでに上位大会への出場を果たしている生徒も出てきた。また読書感想文で文部科学大臣賞を受賞するなどの活動も見られた。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
2学年	基本的な生活習慣の養成を図る。	○挨拶の励行。 ○時間厳守。 ○規範意識の醸成。	B	B 日常における挨拶や時間厳守などの基本的な生活習慣については、多くの生徒が意識して生活しており、年間を通じて良好な生活態度を保つことができた。しかし、他者との意思疎通に苦手意識を持つ生徒が若干見られ、今後も働きかけが必要である。 進路行事および学年行事をととして生徒の知的興味を喚起したことにより、多くの生徒に進路に対する意識の高まりが見られた。学習活動については、生徒個々の家庭学習時間の差が拡大し、十分な確保に至っていない生徒も少なからずいる。内発的動機づけを強化し、引き続き主体的な学習の確立に向けて支援を継続していく所存である。 部活動に関しては積極的に参加しており、上位大会への参加を果たしている生徒が多数出ている。委員会活動等の特別活動への取り組みも良好であり、自主的かつ前向きに参加する姿勢が随所にみられた。最高学年となる来年度については、各活動で中心となることが求められる。
	自主自律的な学習習慣の養成を図る。	○知的興味関心の喚起。 ○主体的学習への移行支援。 ○家庭学習時間の確保。	A	
	特別活動への積極的な参加を促す。	○学校行事、部活動、委員会活動への積極的な参加の促進。 ○各種大会へ積極的な参加の促進。	B	
3学年	進路実現にむけ主体的な学習の実践を図る。	○進路情報を精査し、高い進路目標を設定するための指導・支援。 ○授業を中心とした主体的かつ計画的な学習の促進。 ○進路実現にむけた意識醸成のための指導・支援。	A	A 受験学年として大学入試に向かう雰囲気と比較的早期に醸成され、年間を通して生徒の進路意識は高い儘に維持された。継続的な個別面談により、生徒の進路志望動向を詳細に把握し個々の進路指導に資することができたが、生徒を取り巻く進路環境は年々多様化しており、生徒はもとより保護者とも情報を共有し、変化に即した進路指導がさらに求められる。 学校行事、部活動、委員会活動等、学校生活全般にわたり水戸一高の伝統を継承する意図のもと主体的かつ意欲的に取り組む姿勢が見られ、その経験が多くの生徒の精神的自律を促した。一方で、生徒が社会の一員として自身の在り方・生き方を模索する契機となるよう、生徒個々の個性や才能の伸長に繋がるよう、特別活動の在り方については今後具に検証していく必要がある。 学校生活において生徒は平素より時間の厳守、挨拶、清掃活動を励行しており、基本的な生活習慣が確立していることを窺わせた。また、入学当初は他者との意思疎通に苦手意識を持つ生徒も多く見受けられたが、教員や上級生・級友等の多様な他者との関わりの中で相互に認め合い、落ち着きある人的環境が醸成された。生徒は概して規範意識が高く遵法性に富んでおり、将来実社会において、さらに多様な価値観に晒された際にも変わらぬ姿勢で臨むことが期待される。
	親和寛容の精神を涵養し、精神的自律を図る。	○自らの在り方・生き方に対する指導・支援。 ○個性や才能を伸ばし社会貢献しようとする進取の精神の獲得にむけた指導・支援。 ○社会の一員としての教養と品格を獲得するための指導・支援。	B	
	規範意識および基本的な生活習慣の確立を図る。	○実社会に通用する普遍的な規範意識確立のための支援。 ○学校生活における時間厳守、挨拶・清掃活動の励行促進。	A	

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない